

# 道路巡視業務点検マニュアル

道路巡視業務における道路施設等の点検等は、このマニュアルにより実施するものとする。

## 1 点検項目及び点検方法

施設 区分	点検対象 項目(内容)	点 検 の 方 法 ( 視 点 )	異常個所発見 時の対応
路 面 (路側)	破 損	・ポットホールはないか。 ・ひび割れが生じている箇所はないか。	・応急措置が可能なものは、措置する。
	落石 崩土 堆積物	・落石、崩土、堆積物はないか。 ・石、土砂等が散在している場合は、清掃して除去する。 ・落石、崩土の大きさや量を確認する。	〃
	沈下 崩壊 陥没	・沈下、崩壊、陥没箇所はないか。 ・沈下、崩壊、陥没箇所の沈下量や延長を確認する。	〃
	投棄物	・投棄物(空缶、ビニール、鉄片、木片等)はないか。	・除去する。
	動物の死骸	・動物(猫、犬、タヌキ等)の死骸はないか。	・道路交通等に支障がないように路肩に移動した上で、事務所に連絡する。
法 面	その他	・降雨時に水たまり箇所がないか。 ・路面の凍結状況はどうか、凍結防止剤の散布状況はどうか、スノーボールの状況はどうか。 ・道路交通や道路管理に支障のある事項(廃油、薬品、交通事故等)はないか。	・応急措置が可能なものは、措置する。
	崩壊 崩土	・崩壊、崩土、地すべりはないか。 ・崩壊、崩土の路面からの高さ、幅、長さ、土砂量を確認する。	〃
	防護施設の破損等	・破損している箇所はないか。 ・破損している防護施設の種類と破損箇所の幅、延長を確認する。	〃
	倒木 枯木	・道路交通に支障を来している、又はおそれのある倒木、枯木はないか。	・応急措置が可能なものは、措置する。 ・民有地のものは、緊急時以外、措置はしない。
	陰切り 枝切り	・道路交通に支障を来している枝木はないか。	〃
	その他	・道路交通や道路管理に支障のある事項(法面の異常な変化等)はないか。	・応急措置が可能なものは、措置する。

排水施設	破 損	<ul style="list-style-type: none"> <li>・側溝や側溝蓋に破損している箇所はないか。</li> <li>・破損箇所の大きさ、長さを確認する。</li> </ul>	・応急措置が可能なものは、措置する。
	側溝蓋の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すき間やガタつきはないか。</li> </ul>	〃
	側溝、集水枡、排水口の堆積物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂、枯葉などの堆積物で通水が不良になっている箇所はないか。</li> <li>・通水不良の原因、通水不良箇所の延長や土砂量等を確認する。</li> </ul>	〃
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路交通や道路管理に支障のある事項はないか。</li> </ul>	〃
交通安全施設	防護柵の破損	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破損している箇所はないか。</li> <li>・破損している防護柵の種類と破損箇所の延長を確認する。</li> </ul>	〃
	道路標識、視線誘導標、道路反射鏡の破損	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破損している箇所はないか。</li> <li>・破損している施設の種類を確認する。</li> </ul>	〃
	道路標識、視線誘導標、道路反射鏡の視認性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視認が不良なものはないか。</li> <li>・視認不良施設の種類を確認する。</li> <li>・視認不良の原因を確認する。</li> </ul>	〃
	道路照明の破損と状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・照明器具やポールに破損箇所はないか。</li> </ul>	〃
	区画線の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区画線は鮮明か。</li> </ul>	〃
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路交通や道路管理に支障のある事項はないか。</li> </ul>	〃
その他の道路施設	トンネル関係施設の破損及び状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・照明、非常用施設に不備なものはないか。</li> <li>・漏水箇所はないか。</li> </ul>	〃
	橋梁の高欄、橋柱及び接続部等の破損	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破損箇所はないか。</li> </ul>	〃
	植樹帯、分離帯樹木等の破枯損	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破枯損樹木はないか。</li> <li>・破枯損樹木の種類、高さ(高木は2.5m以上、低木は2.5m未満)及び本数を確認する。</li> </ul>	〃
	休憩施設、パーキング、道路余裕地の破損及び汚れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破損箇所はないか。</li> <li>・落書き、ゴミの放置はないか。</li> </ul>	〃
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路交通や道路管理に支障のある事項はないか。</li> </ul>	〃
その他	道路情報板の確認と状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表示内容や作動性は正常か。</li> </ul>	・表示内容が異なる場合は修正する。
	塩化カルシウム等の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・凍結防止剤配置箇所の塩カル等の残量を確認する。</li> </ul>	・必要に応じ、補充する。

## 2 報告書の記入方法

### (1) 整備パトロール日報(様式3号)

項 目	記 入 方 法	備 考
巡回コース名	・巡回計画書の巡回コースの中から、当日実施したコース名を記入する。 ・巡回したコースが複数の場合は、複数名記入する。	
担当班名	・巡回計画書の班編成の中から、担当班名を記号で記入する。	
出発時刻・帰社時刻	・会社を出発した時刻、巡回を終了して帰社した時刻を記入する。	
路線名	・巡回を実施した順に、巡回計画書の路線名により記入する。	
巡回した区間	・市町村名、大字名、字名で記入する。	
巡回整備時間	・巡回路線までの往復の時間を除き、巡回業務に要した時間を記入する。	
全所要時間	・出発から帰社までの時間を記入する。	
巡回整備走行距離	・巡回路線までの往復の時間を除き、巡回業務での走行距離を記入する。	
全走行距離	・出発から帰社までの走行距離を記入する。	
使用した主な補修材料	・当日の業務で使用した量を記入する。	

### (2) 整備パトロール路線別点検表(様式4号)

項 目	記 入 方 法	備 考
路線名	・整備パトロール日報に記載した路線ごとに作成する。	
巡回整備時間	・その路線の巡回整備を開始した時刻と終了した時刻を記入する。	
巡回整備所要時間	・その路線の巡回整備に要した時間を記入する。	
項目—内容	・異常箇所発見順に記入する。 ・点検項目番号一覧表(様式4号—別紙)の区分により、異常の内容を番号で記入する。	
場所	・異常箇所の場所を市町村名、大字、字で記入する。	
時刻	・異常箇所を発見した時刻を記入する。	
状況及び措置した内容	・異常の状況及び措置した内容を概略記入する。	
措置	・応急措置をした場合に、○印を記入する。	
写真	・応急措置をして写真を撮った場合に、○印を記入する。	異常箇所の大きさ等が分かるよう、ポールや巻尺を当てて応急措置の前後の写真を撮る。

(3) 異常箇所整理表(様式5号)

項 目	記 入 方 法	備 考
作成要領	・整備パトロール路線別点検表(様式4号)で整理した異常箇所のうち,応急措置出来なかったものについて作成する。	
路線名,位置(場所)発見日時(時刻),点検項目番号,異常の内容	・整備パトロール路線別点検表(様式4号)から,転写する。	
位置図	・管内図を部分複写したもの等に,異常箇所の位置を表示する。	
写真 I II	・異常箇所の状況写真と近接写真を貼付する。	

(4) 情報提供整理表(様式6号)

項 目	記 入 方 法	備 考
情報の種類(作成要領)	・業務実施中,住民から受けた要望あるいは苦情,明らかに不法占用等が認められるもの,明らかに工事現場の施設の異常が認められるもの及びその他ごとに作成する。 ・要望等の対象は,原則,市管理道路の維持管理に係るものとする。	・市管理道路の維持管理に係るもの以外の要望等は,「その他」の情報提供として整理すること。
聞取り等の日時	・要望等を受けた時刻を記入する。	
場所	・要望等を受けた場所を市町村名,大字名,字名で記入する。	
住民要望等の場合は相手の氏名等	・要望者等の氏名,住所,電話番号をできる範囲で記入する。	・分からない場合は,不詳と記入する。
具体的内容	・要望者の言分,異常等の状況を要領よく記入する。	
対応・処理経過	・この欄は,業務受託者は記入しない。	・市道路巡視業務担当職員が,要望者等に回答した内容及び担当課への引き継ぎの状況を簡潔に記入する。

# 応急作業時の保安マニュアル

## 1 目的

このマニュアルは、道路巡視業務において、道路上で応急作業を行う際の保安体制の基準を定め、パトロール員の安全と円滑な道路交通の確保を図ることを目的とする。

## 2 誘導

応急作業を行う場合は、必ず1名以上が誘導員として従事し、赤、白の手旗を持って通行車輛等を誘導する。

## 3 作業

- (1) セーフティコーン、バリケード、方向指示板等により作業区域を確保し、一般車輛の侵入を防ぐ措置をする。
- (2) セーフティコーン等の間隔は3 m程度とする。
- (3) 必ず、保安チョッキの着用及びヘルメットの着帽を実施すること。

## 4 保安基準

別図の「応急作業における保安基準例」を基本に、道路状況に応じた保安体制をとって作業を行う。

## 5 2車線以上の道路の場合

- (1) 応急作業を必要とする異常箇所を発見した場合は、巡回整備車を異常箇所の後に停車させ、巡回整備車の表示板を「作業中」とし、黄色の回転灯を点灯する。
- (2) 異常箇所をセーフティコーン等で囲む。(道路交通を考慮し、必要以上に大きく囲まない)
- (3) 誘導員は適切な位置で車両等を誘導する。

## 6 1車線の道路の場合

- (1) 応急作業を必要とする異常箇所を発見した場合は、異常箇所の補修等に必要な機材や保安用具を降ろし、巡回整備車は交通の支障とならない場所に移動する。
- (2) 異常箇所をセーフティコーン等で囲む。(セーフティコーン等は、 $B > A$ となるようA側の路側から設置する。別図「応急作業時における保安基準例」参照)
- (3) 道路に余裕がある場合は通行幅を確保し、車輛等の通行が可能な場合は、適切に誘導する。
- (4) 誘導員は、所定の位置で車両等を誘導する。

交通量の多い時や見通しの悪いカーブなどの場合は、状況に応じて、適切に誘導員を配置し車両等の一時停止の措置を行うなど、作業の安全確保に努める。

